

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第1区分

【発行日】平成17年10月6日(2005.10.6)

【公開番号】特開2004-60636(P2004-60636A)

【公開日】平成16年2月26日(2004.2.26)

【年通号数】公開・登録公報2004-008

【出願番号】特願2003-3330(P2003-3330)

【国際特許分類第7版】

F 04B 53/10

F 04B 23/00

F 04B 43/02

【F I】

F 04B 21/02 E

F 04B 23/00 B

F 04B 43/02 D

F 04B 21/02 G

【手続補正書】

【提出日】平成17年5月23日(2005.5.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0056】

という関係で求められる。ここで、出口流路の直径d、長さl、流体の圧縮率を とする  
と、

$$C = \beta \pi \left( \frac{d}{2} \right)^2 l \text{ 出口流路のコンプライアンス}$$

とすれば良く、やはり、出口流路の直径d、長さl、の関数となっている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0067

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0067】

圧電素子はヤング率4.4E10[N/m<sup>2</sup>]、直径5[mm]、長さ10[mm]、最大変位量6[μm]の物を用いており、ダイヤフラムは圧電素子と同じ直径5[mm]の場合である。このとき、圧電素子の最大発生力は518[N]、圧電素子の保有エネルギーは1.56E-3[J]、圧電素子のコンプライアンス  $C_{p,z,t}$  はポンプ室内の圧力が加わったときの圧電素子の体積変化量であり、4.46E-7[cm<sup>3</sup>/atm]と求められる。また、ダイヤフラムの排除体積  $V_0$  は1.18E-4[cm<sup>3</sup>]となる。